

タイトル「2024年度大学院危機管理理学研究科(公開用)」、フォルダ「大学院危機管理理学研究科」 シラバスの詳細は以下となります。

科目ナンバー																					
科目名	テロリズム対策特講																				
担当教員	工藤 聡一																				
対象学年	2年	開講学期	前期																		
曜日・時間	木5																				
講義室	オンライン	単位区分	選																		
授業形態	講義	単位数	2																		
科目大分類	—																				
科目中分類	修士																				
科目小分類	講義・発展																				
科目の位置付け（開発能力）	D P 1 (意欲・経験・適性) 20% 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察 D P 2 (学識・専門技能) 60% 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能 D P 3 (思考力・判断力・表現力) 20% 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力																				
教員の実務経験																					
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期																				
科目概要・キーワード	テロ行為は、国民の生命、身体及び財産に被害を及ぼすのみならず国民の間に広く恐怖を拡散し、社会に大きな不安をもたらすことから、テロを防止し、発生した場合に適切に対応することが極めて重要となる。本講では、テロの本質について理論的に考察した上で、テロの防止と発生したテロへの適切な対応に向けた国内外における様々な取組の現状を概観する。さらに具体的な事例を取り上げることにより、テロ対策について総合的・実践的に学ぶ。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とする。 ■キーワード テロの未然防止に関する行動計画、テロ資金供与対策、過激化対策、ホームグロウンテロ、CBRNテロ																				
授業の趣旨	■副題 テロの本質、脅威の現状、具体的なテロ対策の理論と実務を理解し、テロの脅威から社会、組織、家族、自分を守るために知識を動員できるようになりましょう。 ■授業の目的 テロは暴力によって特定の価値観に基づく主張の実現を目指すものですが、それが政治性を持つために普遍的に認められる定義が存在しないという問題を理解したうえで、テロの歴史的な経緯を俯瞰します。そして、現在の世界及び我が国が直面しているテロの脅威について、テロの主体、その主張、テロの形態、具体的なテロ事件など、その背景と現状を概観します。そのうえで、そうしたテロを抑止し、防止し、国家や国民をテロから防護し、テロの発生に備えて準備し、発生した場合に対処し、実行者を特定して処罰するための取組について、国際条約や国際機関の取組に基づく国際協力、我が国における法制度の整備や法執行能力の強化などによるテロ対策能力の改善について考察し、その中でテロ対策と民主主義、テロ対策と市民的自由といった問題について課題を発見しその解決に向けて考察を行うことを目的とします。9. 11米国同時多発テロに代表されるように、歴史的にテロのターゲットとされてきた国際航空を、素材として多く用います。海外の文献にも挑戦します。 ■授業のポイント テロは、一部の標的に対して暴力を行使することによって、より広範な人々に不安や恐怖を植え付けることで自らの価値観を実現させようとする心理的な効果を狙った行為です。そうしたテロは、時代によってその目的や主体を変えながらもなくなることなく続いています。最近では、テロ組織に属さない一般の若者が先導されてテロを実行するようになるなど、その未然防止も困難になっています。そうしたテロから社会や人々をどう守るべきなのかについて、様々なテロ対策の取組の現状について学び、そこから見えてくる課題を考察します。																				
総合到達目標	■テロが政治性を持つために普遍的に認められる定義が存在しないという問題を理解し説明することができる。 ・各国の法律の規定や研究者によるものなど様々なテロの定義を比較して、その共通点を抽出することができる。（第2回、第3回） ・普遍的なテロの定義を構築するこれまでの取組を概観したうえで、普遍的な定義が困難である理由について説明することができる。（第2回、第3回） ■現在の世界及び我が国が直面しているテロの脅威について、テロの主体、その主張、テロの形態、具体的なテロ事件を概観したうえで、テロの防止及び発生した場合の被害管理、実行者の処罰などにおける我が国の取組と国際協力の現状について説明することができる。 ・我が国及び国際社会が現在直面しているテロの脅威について現状とその変化について概観し、説明することができる。（第3回、第4回、第7回） ・我が国におけるテロ対策の現状と具体的な取組、テロ対策における国際協力の現状について概観し、説明することができる。（第5回、第6回、第8回～第14回） ■我が国におけるテロ対策の在り方における課題を発見し、その解決に向けた考察を行うことができる。 ・我が国のテロ対策の取組について政府の取組を概観したうえで、取組における課題を発見し効果的な取組の在り方を考察することができる。（第8回～第13回） ・テロ対策において重要とされる多機関連携の現状を概観し、それを効果的に進めるための取組の在り方について考察することができる。（第13回、第15回） ・テロ対策における国民の協力の重要性について理解したうえで、協力を獲得するための効果的な取組について考察することができる。（第12回、第13回、第15回）																				
成績評価方法	■レポート1回（50%） （評価の観点）テロの本質、様々な分野におけるテロ対策の取組の現状と課題、テクノロジーの活用、民主主義的価値観とのバランスの問題、などに関する専門的知識の修得の程度と、それを踏まえて具体的な課題の解決を導き出す力が身についているかを評価します。 （フィードバックの方法）授業の時間中にレポートの着眼点について解説します。 ■授業参加度（50%） （評価の観点）テロの本質が理解できているか、テロ対策に関する専門的知識が修得できているか、習得した専門知識をテロ対策における課題の解決に向けて応用できるか、などについて評価します。 （フィードバック）授業時間中に解説します。																				
履修条件	特にありません。																				
履修上の注意点	特にありません。																				
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の全体の構成、授業の目的と進め方、総合到達目標、成績の評価方法について十分に理解したうえで、学修計画をたてることができるようになる。 ③予習（60分） シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習（60分） 授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。</td></tr><tr><td>2</td><td>①授業テーマ テロの歴史と定義 ②授業概要 テロに関する歴史を考察し、テロの本質と様々なテロの定義を概観したうえで、テロが政治性を持つために普遍的な定義が困難である問題を理解し説明できるようになる（E1、C1）。 ③予習（180分） 国内の法律や関係機関によりテロがどのように定義されているか、図書館でテロ関連の専門書などを閲覧して調べておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、普遍的なテロの定義が困難な理由を再確認しておく。</td></tr><tr><td>3</td><td>①授業テーマ 変化するテロの脅威 ②授業概要 冷戦の崩壊に伴って、テロ主体の形態、支援者、動機や目的、戦術などが大きく変化し、これに沿ってテロ対策も変化してきた経緯を理解し説明できるようになる（E1、G1）。 ③予習（120分） 公安調査庁のサイトに掲載されている「国際テロリズム要覧」（Web版：http://www.moj.go.jp/psia/ITH/index.html）を閲覧して、世界にはどのようなテロ組織があるのか、それらの目的や主義主張は何かについて調べておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、テロの主体の変化に伴ってテロ対策がこれに対応しようとしてどのように変化してきたかを確認しておく。</td></tr><tr><td>4</td><td>①授業テーマ 世界と日本が直面しているテロの脅威 ②授業概要 近年、活発にテロ活動を行っているテロ組織について、その主張や目的、勢力、活動地域、使用する戦術などを概観することにより、世界と日本が直面しているテロの脅威の概要を理解し説明できるようになる（E1、I3）。 ③予習（120分） 公安調査庁のサイトに掲載された「国際テロリズム要覧」（Web版：http://www.moj.go.jp/psia/ITH/index.html）の「概観」の部分をよく読んで、現在のテロ情勢について把握しておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、現在、世界にとって最も深刻なテロの脅威はどんなテロ組織や思想によるものかを確認し、その理由について考えてみる。</td></tr><tr><td>5</td><td>①授業テーマ テロ対策の具体的な内容 ②授業概要 テロ対策を大きく分けると、発生そのものを防止する未然防止と、発生した場合に的確に対処して被害を局限化する活動があり、それぞれ具体的にどのような取組なのかを理解し説明できるようになる（E1）。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。 ③予習（120分） テロの未然防止が重要であるとされる理由、万一テロが発生した場合に取るべき措置について考え、メモしておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、被害を局限化するうえで最も重要な要素だと思ふものをあげて、その理由を考えてみる。</td></tr><tr><td>6</td><td>①授業テーマ テロ対策における国際協力 ②授業概要 テロの脅威は国を超えたものであることから、各国がそれぞれテロ対策を行うのみならず国際的に協力することが不可欠であること及びそのために行われている取組の概要を理解し概説できるようになる（E1、C1）。 ③予習（120分） テロ対策のための国際条約にはどのようなものがあるか、またそれらの条約の内容はどのようなものかを調べてメモしておく。 ④復習（120分） なぜテロ対策に国際協力が必要なのか、またなぜそれが困難な場合があるのか、それぞれの理由を考えてみる。</td></tr><tr><td>7</td><td>①授業テーマ CBRNテロの脅威 ②授業概要 日本でのサリン事件など具体的な事例を取り上げて、化学剤（C）、生物剤（B）、放射性物質（R）、核物質（N）を使用したいわゆる大量破壊兵器テロについて、その特徴と対処方法の概要を理解し概説できるようになる（E1、I3）。 ③予習（120分） 1995年に発生した東京地下鉄サリン事件とはどのような事件だったのかをできるだけ詳しく調べておく。 ④復習（120分） CBRNテロのそれぞれの特徴と、対処の難しさについて確認しておく。</td></tr><tr><td>8</td><td>①授業テーマ 「テロの未然防止に関する行動計画」の意義と内容 ②授業概要 2004年に日本政府が策定した「テロの未然防止に関する行動計画」の内容を概観し、日本のテロ対策における同文書の意義及びその成果について理解して説明し、課題について考察</td></tr></table>			回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の全体の構成、授業の目的と進め方、総合到達目標、成績の評価方法について十分に理解したうえで、学修計画をたてることができるようになる。 ③予習（60分） シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習（60分） 授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。	2	①授業テーマ テロの歴史と定義 ②授業概要 テロに関する歴史を考察し、テロの本質と様々なテロの定義を概観したうえで、テロが政治性を持つために普遍的な定義が困難である問題を理解し説明できるようになる（E1、C1）。 ③予習（180分） 国内の法律や関係機関によりテロがどのように定義されているか、図書館でテロ関連の専門書などを閲覧して調べておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、普遍的なテロの定義が困難な理由を再確認しておく。	3	①授業テーマ 変化するテロの脅威 ②授業概要 冷戦の崩壊に伴って、テロ主体の形態、支援者、動機や目的、戦術などが大きく変化し、これに沿ってテロ対策も変化してきた経緯を理解し説明できるようになる（E1、G1）。 ③予習（120分） 公安調査庁のサイトに掲載されている「国際テロリズム要覧」（Web版：http://www.moj.go.jp/psia/ITH/index.html）を閲覧して、世界にはどのようなテロ組織があるのか、それらの目的や主義主張は何かについて調べておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、テロの主体の変化に伴ってテロ対策がこれに対応しようとしてどのように変化してきたかを確認しておく。	4	①授業テーマ 世界と日本が直面しているテロの脅威 ②授業概要 近年、活発にテロ活動を行っているテロ組織について、その主張や目的、勢力、活動地域、使用する戦術などを概観することにより、世界と日本が直面しているテロの脅威の概要を理解し説明できるようになる（E1、I3）。 ③予習（120分） 公安調査庁のサイトに掲載された「国際テロリズム要覧」（Web版：http://www.moj.go.jp/psia/ITH/index.html）の「概観」の部分をよく読んで、現在のテロ情勢について把握しておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、現在、世界にとって最も深刻なテロの脅威はどんなテロ組織や思想によるものかを確認し、その理由について考えてみる。	5	①授業テーマ テロ対策の具体的な内容 ②授業概要 テロ対策を大きく分けると、発生そのものを防止する未然防止と、発生した場合に的確に対処して被害を局限化する活動があり、それぞれ具体的にどのような取組なのかを理解し説明できるようになる（E1）。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。 ③予習（120分） テロの未然防止が重要であるとされる理由、万一テロが発生した場合に取るべき措置について考え、メモしておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、被害を局限化するうえで最も重要な要素だと思ふものをあげて、その理由を考えてみる。	6	①授業テーマ テロ対策における国際協力 ②授業概要 テロの脅威は国を超えたものであることから、各国がそれぞれテロ対策を行うのみならず国際的に協力することが不可欠であること及びそのために行われている取組の概要を理解し概説できるようになる（E1、C1）。 ③予習（120分） テロ対策のための国際条約にはどのようなものがあるか、またそれらの条約の内容はどのようなものかを調べてメモしておく。 ④復習（120分） なぜテロ対策に国際協力が必要なのか、またなぜそれが困難な場合があるのか、それぞれの理由を考えてみる。	7	①授業テーマ CBRNテロの脅威 ②授業概要 日本でのサリン事件など具体的な事例を取り上げて、化学剤（C）、生物剤（B）、放射性物質（R）、核物質（N）を使用したいわゆる大量破壊兵器テロについて、その特徴と対処方法の概要を理解し概説できるようになる（E1、I3）。 ③予習（120分） 1995年に発生した東京地下鉄サリン事件とはどのような事件だったのかをできるだけ詳しく調べておく。 ④復習（120分） CBRNテロのそれぞれの特徴と、対処の難しさについて確認しておく。	8	①授業テーマ 「テロの未然防止に関する行動計画」の意義と内容 ②授業概要 2004年に日本政府が策定した「テロの未然防止に関する行動計画」の内容を概観し、日本のテロ対策における同文書の意義及びその成果について理解して説明し、課題について考察
回	内容																				
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の全体の構成、授業の目的と進め方、総合到達目標、成績の評価方法について十分に理解したうえで、学修計画をたてることができるようになる。 ③予習（60分） シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習（60分） 授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。																				
2	①授業テーマ テロの歴史と定義 ②授業概要 テロに関する歴史を考察し、テロの本質と様々なテロの定義を概観したうえで、テロが政治性を持つために普遍的な定義が困難である問題を理解し説明できるようになる（E1、C1）。 ③予習（180分） 国内の法律や関係機関によりテロがどのように定義されているか、図書館でテロ関連の専門書などを閲覧して調べておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、普遍的なテロの定義が困難な理由を再確認しておく。																				
3	①授業テーマ 変化するテロの脅威 ②授業概要 冷戦の崩壊に伴って、テロ主体の形態、支援者、動機や目的、戦術などが大きく変化し、これに沿ってテロ対策も変化してきた経緯を理解し説明できるようになる（E1、G1）。 ③予習（120分） 公安調査庁のサイトに掲載されている「国際テロリズム要覧」（Web版：http://www.moj.go.jp/psia/ITH/index.html）を閲覧して、世界にはどのようなテロ組織があるのか、それらの目的や主義主張は何かについて調べておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、テロの主体の変化に伴ってテロ対策がこれに対応しようとしてどのように変化してきたかを確認しておく。																				
4	①授業テーマ 世界と日本が直面しているテロの脅威 ②授業概要 近年、活発にテロ活動を行っているテロ組織について、その主張や目的、勢力、活動地域、使用する戦術などを概観することにより、世界と日本が直面しているテロの脅威の概要を理解し説明できるようになる（E1、I3）。 ③予習（120分） 公安調査庁のサイトに掲載された「国際テロリズム要覧」（Web版：http://www.moj.go.jp/psia/ITH/index.html）の「概観」の部分をよく読んで、現在のテロ情勢について把握しておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、現在、世界にとって最も深刻なテロの脅威はどんなテロ組織や思想によるものかを確認し、その理由について考えてみる。																				
5	①授業テーマ テロ対策の具体的な内容 ②授業概要 テロ対策を大きく分けると、発生そのものを防止する未然防止と、発生した場合に的確に対処して被害を局限化する活動があり、それぞれ具体的にどのような取組なのかを理解し説明できるようになる（E1）。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。 ③予習（120分） テロの未然防止が重要であるとされる理由、万一テロが発生した場合に取るべき措置について考え、メモしておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、被害を局限化するうえで最も重要な要素だと思ふものをあげて、その理由を考えてみる。																				
6	①授業テーマ テロ対策における国際協力 ②授業概要 テロの脅威は国を超えたものであることから、各国がそれぞれテロ対策を行うのみならず国際的に協力することが不可欠であること及びそのために行われている取組の概要を理解し概説できるようになる（E1、C1）。 ③予習（120分） テロ対策のための国際条約にはどのようなものがあるか、またそれらの条約の内容はどのようなものかを調べてメモしておく。 ④復習（120分） なぜテロ対策に国際協力が必要なのか、またなぜそれが困難な場合があるのか、それぞれの理由を考えてみる。																				
7	①授業テーマ CBRNテロの脅威 ②授業概要 日本でのサリン事件など具体的な事例を取り上げて、化学剤（C）、生物剤（B）、放射性物質（R）、核物質（N）を使用したいわゆる大量破壊兵器テロについて、その特徴と対処方法の概要を理解し概説できるようになる（E1、I3）。 ③予習（120分） 1995年に発生した東京地下鉄サリン事件とはどのような事件だったのかをできるだけ詳しく調べておく。 ④復習（120分） CBRNテロのそれぞれの特徴と、対処の難しさについて確認しておく。																				
8	①授業テーマ 「テロの未然防止に関する行動計画」の意義と内容 ②授業概要 2004年に日本政府が策定した「テロの未然防止に関する行動計画」の内容を概観し、日本のテロ対策における同文書の意義及びその成果について理解して説明し、課題について考察																				

		できるようになる（E1）。 ③予習（120分） 「テロの未然防止に関する行動計画」（ https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sosikihanzai/kettei/041210kettei.pdf ）に目を通し、その内容を把握しておく。 ④復習（120分） 「テロの未然防止に関する行動計画」が実行的なものとして実現されてきた理由とその背景について確認しておく。
9		①授業テーマ 日本のテロ対策の現状 ②授業概要 「テロの未然防止に関する行動計画」以降における日本のテロ対策の取組の現状について、その後に政府が作成した関連文書などを概観しながら、その概要を理解し概説できるようになる（E1）。 ③予習（120分） 内閣官房のサイトに掲載された「主なテロの未然防止対策の現状」に目を通して、日本のテロ対策の現状を把握しておく。 ④復習（120分） 「テロの未然防止に関する行動計画」とそれ以降の政府のテロ対策文書を比較して、どのように異なっているのか、そのことによるテロ対策の実行への影響について考える。
10		①授業テーマ テロの防止に向けた取組①－水際対策と準備活動の発見 ②授業概要 テロリストが外国から日本に潜入するのを防止するための水際対策の取組と、すでに国内に存在するテロリストによるテロの準備活動を発見・阻止するための取組について理解し説明できるようになる（E1）。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。 ③予習（120分） 内閣官房のサイトに掲載された「主なテロの未然防止対策の現状」の「1. 出入国管理等の強化」の部分をよく読んで、具体的な水際対策の現状を把握しておく。 ④復習（120分） テロ対策において国民は何ができるのか、事業者はそれぞれの業態に応じて何ができるのかを考えてメモしておく。
11		①授業テーマ テロの防止に向けた取組②－危険物対策 ②授業概要 テロリストが爆発物や爆発物を製造するための材料を入手したり、危険な化学剤、病原体、放射性物質などを入手することを防止するための取組の概要を理解し概説できるようになる（E1、I3）。 ③予習（120分） 内閣官房のサイトに掲載された「主なテロの未然防止対策の現状」の「4. NBCテロ等への対処の強化」の部分をよく読み、危険物に対するテロ対策としてどのような取組がなされているかを把握しておく。 ④復習（120分） テロに利用される恐れのある危険物にはどのようなものがあり、それが具体的にテロにどのように利用されるのかを確認しておく。
12		①授業テーマ テロの防止に向けた取組③－警戒警備 ②授業概要 テロの標的になる可能性の高い様々な施設などに対する警戒警備の取組について、概要を理解し概説できるようになる（E1、G1）。担当教員の在外公館における警備担当官としての実務経験を踏まえて、警戒警備の取組について解説します。 ③予習（120分） 内閣官房のサイトの掲載された「主なテロの未然防止対策の現状」の「5. 国内重要施設の警戒警備の強化等」の部分をよく読み、どのような警戒警備が行われているのかを理解しておく。 ④復習（120分） 日本国内でテロの標的となる可能性が高い施設にはどんなものがあるのか、そうした施設においてはどんな対策が必要かを具体的に考えてみる。
13		①授業テーマ テロ事件への対処－被害管理 ②授業概要 テロ事件が発生した場合に、被害を局限化するために警察、消防・救急、自治体、自衛隊などの関係機関が相互に連携して対処する取組の必要性とそのための方策について理解し説明できるようになる（E1、C1）。担当教員の「海上・臨海部テロ対策協議会」の座長としての実務経験を踏まえて、多機関連携の構築について解説します。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。レポートの課題について提示し、着眼点について解説します。 ③予習（120分） 「NBCテロその他大量殺傷型テロ対処現地関係機関連携モデル」（ http://www.mhlw.go.jp/topics/2017/01/dl/tp01117-z02-01s.pdf ）に目を通し、関係機関の連携の重要性と連携の方法について把握しておく。 ④復習（120分） 授業を振り返って、特性の異なる多機関が現場における連携を強化するうえで、どのような取組をすることが効果的なのかについて確認しておく。
14		①授業テーマ テロ対策とテクノロジー ②授業概要 テロ対策、特にCBRNテロへの対処においてテクノロジーの果たす役割を理解し、そうしたテクノロジーの開発及び運用の現状について具体的な事例を概観し、その概要を理解し概説できるようになる（E1、I3）。担当教員の文科省科学技術審議会専門委員（安全安心科学技術及び社会連携委員会）としての実務経験を踏まえて、テロ対策におけるテクノロジー開発の重要性について解説します。 ③予習（120分） 化学剤・生物剤検知器や放射線を検知する資機材にはどのようなものがあるのか、具体的にどのような場合に使用されているのかについて調べておく。 ④復習（120分） テロ対策を行ううえにおいて、テクノロジーの効果的利用がどのような利点をもたらすのか、またその課題は何かについて考えてみる。
15		①授業テーマ まとめ ②授業概要 これまで14回の授業を振り返り、世界及び我が国が直面するテロの脅威、テロ対策の具体的内容、現状と課題を踏まえて、効果的かつ国民の理解を得られるテロ対策はどのようなものか、その在り方を考察できるようになる。 第1回～第15回の授業内容に即したレポートの課題を設定します。執筆要領は授業中に説明します。着眼点等についての解説も行います。 ③予習（120分） これまでの14回の授業を振り返り、現在の日本におけるテロ対策の課題について抽出し、その課題に対する解決方法を考察し、メモしておく。 ④復習（180分） これまでのすべての授業について復習をしたうえで、自分の将来目指す進路において、テロ対策にどのような関与がありうるのかについて考えてみる。また、国民としてテロ対策にどのような考え方を持ち、どのような役割を果たせるのかについて考えてみる。
関連科目	「社会安全・治安維持特講」（R5MR0021）に関連しています。	
教科書	Clay W. Biles, How to Stop a Hijacking (2023, CRC Press)	
参考書・参考URL	Kathleen M. Sweet, Aviation and Airport Security (2nd ed., 2009, CRC Press); Bart Elias, Airport and Aviation Security (2010, CRC Press); Pavel Pavlovich Hachikyan, Countering Air Terrorism (2022, Springer)	
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。	
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%; パブリックセキュリティ50%; グローバルセキュリティ20%; 情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学80%; 法学20%	